

II 各教科の正答率、誤答例及び所見

1 国語

(1) 正答率

問 題	配 点	正 答		一部正答		誤 答		無 答		通 過 率 率= $\frac{\text{得点計}}{\text{(人数}\times\text{配点)}}(\%)$	
		数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)		
1	問 1	4	440	91.9	0	0.0	39	8.1	0	0.0	91.9
	問 2	6	98	20.5	323	67.4	44	9.2	14	2.9	56.5
	問 3	4	321	67.0	0	0.0	148	30.9	10	2.1	67.0
	問 4	6	66	13.8	212	44.3	119	24.8	82	17.1	37.5
	問 5	5	364	76.0	0	0.0	108	22.5	7	1.5	76.0
2	問 1 (1)	2	381	79.5	0	0.0	82	17.1	16	3.3	79.5
	問 1 (2)	2	418	87.3	0	0.0	49	10.2	12	2.5	87.3
	問 1 (3)	2	231	48.2	0	0.0	195	40.7	53	11.1	48.2
	問 1 (4)	2	85	17.7	0	0.0	249	52.0	145	30.3	17.7
	問 1 (5)	2	328	68.5	0	0.0	88	18.4	63	13.2	68.5
	問 2	3	154	32.2	22	4.6	299	62.4	4	0.8	34.2
	問 3	3	328	68.5	0	0.0	150	31.3	1	0.2	68.5
	問 4	3	339	70.8	0	0.0	140	29.2	0	0.0	70.8
	問 5	3	12	2.5	58	12.1	408	85.2	1	0.2	8.4
3	問 1	4	244	50.9	0	0.0	224	46.8	11	2.3	50.9
	問 2	6	92	19.2	285	59.5	74	15.4	28	5.8	48.7
	問 3	4	314	65.6	0	0.0	164	34.2	1	0.2	65.6
	問 4	6	108	22.5	214	44.7	67	14.0	90	18.8	46.8
	問 5	5	229	47.8	0	0.0	237	49.5	13	2.7	47.8
4	問 1	3	251	52.4	1	0.2	213	44.5	14	2.9	52.5
	問 2	3	188	39.2	14	2.9	189	39.5	88	18.4	41.0
	問 3	3	244	50.9	0	0.0	227	47.4	8	1.7	50.9
	問 4	3	335	69.9	0	0.0	136	28.4	8	1.7	69.9
5	16	36	7.5	413	86.2	19	4.0	11	2.3	64.2	

(小数点以下第2位を四捨五入しているため、%の合計が100にならない場合がある)

(2) 各問題の誤答分析及び所見

平均点は、57.9点であった。標本の通過率は56.8%で、標準偏差は18.24であった。

- 1 文学的な文章を理解する力をみようとした問題である。大問全体の通過率は63.2%であり、昨年度と比較して3.9ポイント下がった。
 - 問 1 文脈の中における語句の使い方に注意して読み、内容を的確にとらえる力をみる問題で、通過率は91.9%であった。語句の一般的な意味を踏まえ、文脈の中における、具体的、個別的な意味をとらえさせる指導の定着がうかがえる。
 - 問 2 登場人物の心情を読み取り、適切に表現する力をみる問題で、通過率は56.5%であった。誤答としては、「先のことがはっきりしていない」「カメラの勉強のために世界を回る」といった、高杉がすごいと感じたはっちの決断の具体的な内容を欠いたものが多かった。登場人物の心情を正しくとらえ、適切に表現させる指導の充実が求められる。
 - 問 3 描写に注意して読み、内容を的確にとらえる力をみる問題で、通過率は67.0%であった。誤答としては、「高校生にな」「中学時代以」が多かった。正答を導くためには、「そのプレー姿」の具体的な描写を読み取り、連続する2文としてとらえる力が求められる。また、解答の単位が「文」であることに着目することも必要である。
 - 問 4 登場人物の言動の意味を的確にとらえ、適切に表現する力をみる問題で、通過率は37.5%であった。誤答としては、「一勝の喜び」「嬉しさ」といった、高杉がこの写真から知ったことの具体的な内容を欠いたもの、指示された文脈にあてはまらないものが多かった。登場人物の言動や心情の変化をとらえ、適切に表現させる指導が必要である。
 - 問 5 場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容を正確に理解する力をみる問題で、通過率は76.0%であった。場面や登場人物の設定をとらえることで、文章全体の理解を深める指導の継続が求められる。

- 2 基礎的・基本的な言語能力をみようとした問題である。大問全体の通過率は52.2%であり、昨年度と比較して6.5ポイント下がった。
- 問1 基本的な漢字の読み書きについての問題である。(1)「諭す」は、「ろんす」と誤ったものが最も多く、他に「ほどこす」「うながす」などの誤答が見られた。(4)「紅潮」は、「固張」「紅張」などの誤答が見られた。日常での漢字学習の際に、語彙として意味も理解させ、同音・同訓は文脈の中で、適切な漢字を判断して使用させる指導が必要である。
- 問2 連用修飾語についての理解を問う問題で、通過率は34.2%であった。誤答としては、ア「大きな」、オ「羊毛のような」、エ「生えた」などが多く、正答の一つであるウ「はたして」を選んだものが少なかった。係り受けは、文法の学習に加え、「書くこと」や「読むこと」の叙述の指導の際にも機会を捉えて指導し、教科書の教材から学べる語彙も増やしていきたい。
- 問3 熟語の構成についての理解を問う問題で、通過率は68.5%であった。誤答としては、エ「雷鳴」が最も多く、「歓喜」という意味が似ている漢字の組み合わせを、主語と述語の関係と取り違えたためと思われる。熟語の意味を理解させた上で、語順や主述、修飾などの文法的な構成に着目させる指導の継続が求められる。
- 問4 敬語の適切な使用法についての理解を問う問題であり、通過率は70.8%であった。誤答としては、イ「うかがわれる」が最も多く、前の文の「うかがいます」という語に注目して考えてしまったためと思われる。尊敬表現と謙譲表現の取り違えの誤用は日常でもよく見られるため、基本的な敬語の語彙や用法を理解させ、繰り返し使用する場面を作りながら指導していきたい。
- 問5 ことわざや慣用句、故事成語についての理解を問う問題で、通過率は8.4%であった。誤答として多かったのはエ「油断ができない」であり、「気がおけない」を本来の意味と違って理解していると思われる。教科書で扱うことわざ、慣用句、故事成語にとどまらず、補助資料の活用や発展的な学習を通して、これらの語句や表現を広げていく指導の工夫が必要である。
- 3 説明的な文章を理解する力をみようとした問題である。大問全体の通過率は51.1%であり、昨年度と比較して16.1ポイント上がった。
- 問1 文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、内容を的確にとらえる力をみる問題で、通過率は50.9%であった。誤答としては、「人間の足は」が最も多く、次いで「哺乳類とい」であり、傍線部の前後を答えたものが多かった。段落ごとの内容や段落相互の関係を正しくとらえさせる指導の充実が求められる。
- 問2 表現上の工夫に注意して内容を理解し、適切に表現する力をみる問題で、通過率は48.7%であった。「完全に移動するための道具にする」「手が自由に使えるようになった」という二つの解答要素を欠き、「サルのように足で枝がつかめない」などの記述を用いた解答が多かった。具体例から抽象的な表現に置き換える力をつける必要がある。
- 問3 文章に書かれている内容を正しく読み取り、理解する力をみる問題で、通過率は65.6%であった。本文中から「ヒトの進化」に関係する部分を正確に読み取った上で、文脈の中における論理の展開を考えながら、選択肢の正誤を丁寧に吟味する必要がある。
- 問4 文章の構成や展開に注意して内容を理解し、条件に応じて適切に表現する力をみる問題で、通過率は46.8%であった。誤答としては、「自分を客観的に見る感覚を司る」「物事の優先順位を決める」という前頭前野の二つの機能のうち、どちらか一方の要素のみにしか言及していないものが最も多かった。文章中におけるキーワードの用いられ方に着目し、内容を正確に理解した上で適切に結びつけて表現させる指導の充実が求められる。
- 問5 文章の論理の展開の仕方をとらえ、内容を正確に理解する力をみる問題で、通過率は47.8%であった。誤答としてはエが最も多かった。文章全体を叙述に即して読み取り、要旨をとらえさせる指導の充実が求められる。
- 4 古典を理解する基本的な力をみようとした問題である。大問全体の通過率は53.6%で、昨年度と比較して2.3ポイント上がった。
- 問1 歴史的仮名遣いについての理解をみる問題で、通過率は52.5%であった。文語のきまりを正確に理解するとともに、古文を音読し、古典特有のリズムを味わいながら古典の世界に触れる学習活動を行っていくことが大切である。
- 問2 文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解する力をみる問題で、通過率は41.0%であった。誤答としては、傍線部の叙述から離れてしまったことに起因するものが多かった。文章の展開に即し、場面を確認しながら読む力をつけさせる指導が必要である。
- 問3 古典に表れたものの見方や考え方をとらえ、内容を理解する力をみる問題で、通過率は50.9%であった。文章の展開を確かめながら読むことに加え、複数の作品に触れることで、古典に表れたものの見方や考え方に気付かせる指導の充実が求められる。
- 問4 文章に書かれている内容を、叙述に基づいて的確にとらえる力をみる問題で、通過率は69.9%であった。誤答としては、文脈から内容を正しく読み取れなかったことに起因するものが多かった。文章の展開に即し、丁寧に読んでいく力をつけさせる指導の継続が求められる。

- 5 資料から読み取ったことをもとに、「家庭ごみの減量」についての自分の考えを、段落や構成に注意しながら、自らの体験をふまえて書く力をみようとした問題である。通過率は64.2%であり、昨年度と比較して2.8ポイント下がった。資料は「容器包装廃棄物の使用・排出実態調査（平成25年度）」（環境省）より作成したものである。

誤答としては、示された資料から読み取ったことを作文の中に入れていないもの、誤った資料の読み取り方をしてしまったものが多かった。重ねて、誤字・脱字等の表記に誤りのあるもの、主語・述語の関係が不適切なもの、話し言葉で記述しているもの、原稿用紙の使い方が不適切なものなどが減点の対象となった。自分の意見や考えを相手により明確に伝えるために、資料から情報を正確に読み取り、自分の考えの根拠として、文章を書く指導の充実が求められる。



トピック

～文章の内容を的確に読み取り、要約したり、詳述したりする力を養う～



問題	正答へのプロセス～記述する内容の〈条件〉と〈要素〉
1 問2 通過率 56.5%	高杉が「わからんって……すげえな。」と感じたはちの決断にあたる内容を文章中から探し、30字以上、40字以内でまとめる。 《条件》「というはちの決断。」という文末でまとめる。 《要素》①「あとのこと（さきのこと）はわからんが」 ②「父親のもとでカメラの勉強をしながら世界をまわる」
1 問4 通過率 37.5%	高杉が「いい写真やな。」と発言した理由にあたる内容を文章中から探し、30字以上、40字以内でまとめる。 《条件》文頭を「この写真は、赤緒が中三の惨敗のときの悔しさを」とし、「と思ったから。」という文末でまとめる。 《要素》①赤緒は「悔しさ」をどうしたのか。 ②その結果、何をつかみ取り、どのような気持ちを味わうことができたのか。
3 問2 通過率 48.7%	筆者が考える「ヒトとほかの霊長類との決定的な違い」にあたる内容を文章中から探し、25字以上、35字以内でまとめる。 《条件》文頭を「ヒトは、足を」とし、「という点。」という文末でまとめる。 《要素》①ヒトが足のある道具にしたこと。 ②①の結果、ヒトができるようになったこと。
3 問4 通過率 46.8%	筆者の考える「過酷な環境を生き抜くためのヒトの進化」を説明した内容を文章中から探し、「共同作業」「前頭前野」の二つの言葉を使って、55字以上、65字以内でまとめる。 《条件》文頭を「ヒトは、二足歩行に加え、大きな脳を持つようになったが、その中でも、」とし、「を営むように進化した。」という文末でまとめる。 《要素》文章中から「共同作業」「前頭前野」が使われている部分を探し出す。

上記のような記述に関する問題の正答を導くためには、①問題文の指示をしっかりと読むこと。（解答の手掛かりが隠されている。）②問題文の指示に従って、文章中から適切な部分を読み取ること。（適切な部分が複数にわたる場合もある。）③問題文の指示の条件や注意に従ってまとめること。（限られた字数、文頭・文末につながるようにまとめる。）の3つの過程をふまえた学習が必要になる。

記述問題の誤答を分析すると、条件や注意に従って、要約したり、違う言葉に置き換えたりすることができず、文章の中からそのまま抜き出して解答してしまう受検生が少なくない。また、その他の誤答として、主述の関係が不成立、文章にねじれがある、助詞の不適切な使用、話し言葉で書かれている、誤字や脱字がある、文末表現に常体と敬体が混在しているなどが見られた。

〈指導改善のポイント〉

～ノート学習のすすめ 様々な条件で文章をまとめよう（要約しよう）～



要約とは、文章や話の全体または部分を短くまとめることである。文章や話の理解を深めたり、読み聞きした内容を相手に伝えたりするときに要約は不可欠なものである。日々の継続的な要約指導の具体例として、文学的文章は、①登場人物を整理する。②場面・舞台ごとにまとめる。③登場人物の心理的経過（心情変化）についてまとめる。④時間的経過ごとにまとめる。⑤行動経過ごとにまとめる。⑥字数制限を設けて、あらすじをまとめるなど。説明的文章は、①形式段落ごとにまとめる。②意味段落ごとにまとめる。③序論（はじめ）・本論（なか）・結論（おわり）ごとにまとめる。④字数制限を設けて、キーワードやキーセンテンスを用いてまとめる。⑤大意（ある文章や話の全体の要点をまとめたもの）を書くなどが考えられる。要約するためには、文字力、語句力、語法力などの基礎のうえに、段落構成をとらえる力が必要となる。段落構成の指導を繰り返し実践してほしい。